

「いじめ問題を考える週間」

毎学期のスタートで、「いじめ問題を考える週間」が設定され、県内すべての学校で行われています。しっかりと「いじめ問題」について、みんなが考えていく必要性があるからです。12月の人権週間のテーマで『誰か』のことじゃない」で考えたように、どれだけ「自分ごと」として考えられるかが大事なことになってくるのではないのでしょうか。

昨年末に、そんな思いをもった県内の小中高校生が集い、「県いじめ問題子供サミット」が開かれ、「いじめといじりの違い」や「なぜ、いじめがなくなるのか」というテーマで意見交換し、改善策をまとめていました。学校の枠を越えて、「いじめ問題」をなくそうという熱い気持ちをもった仲間たちがいることに心強さと嬉しさを感じました。

R4 1/5(水) 南日本新聞

いじめ問題について意見交換する児童生徒たち
＝座 児島市の県市町村自治会館



鹿児島県内の小中高校生らがいじめ問題について徹底討論する「県いじめ問題子供サミット」(県教育委員会主催)が、鹿児島市の県市町村自治会館であった。「いじめといじりの違い」や「なぜいじめがなくなるのか」のテーマについて意見交換し、改善策をまとめた。

いじめいじりどどう違う

防止策、小中高生ら討論

いじめ防止について「注意すると真面目ぶっているとかわれたり、次の標的にされたりするため、止められない」とや「相談できる人が家に

いない程度がいじり」との意見が目立ったが、「いじられていて楽しそうなる人を見たことがないのでいじりも良くない」との声も上がった。

児童生徒約70人が12月27日、一堂に会し、約150人がオンライン参加。小学、中学、高校別3〜4人の班に分かれて話し合った後、全体に向けて発表した。「いじめ」といじりの違いについて、「みんなが嫌にならないう程度がいじり」と



も学校にもいない」との課題が浮上。「1カ月に1、2回教職員に相談できる場所をつくる」などの対策が提案された。

枕崎中1年横野淳士さんは「他校の取り組みを知ることができて良かった。今後に生かしたい」と話した。(鹿児島県)

枕崎中1年横野淳士さんは「他校の取り組みを知ることができて良かった。今後に生かしたい」と話した。(鹿児島県)

枕崎中1年横野淳士さんは「他校の取り組みを知ることができて良かった。今後に生かしたい」と話した。(鹿児島県)

枕崎中1年横野淳士さんは「他校の取り組みを知ることができて良かった。今後に生かしたい」と話した。(鹿児島県)

裏に人権作文を載せています。読んで、「自分のこと」として考えてみましょう。

「いじり」は「いじめ」

兵庫県姫路市立高丘中学校2年 尾崎七星

「いじられキャラ」という言葉を聞くと、「みんなから愛される人」という印象を持つと思う。だが、本当にそうなのだろうか。

私の友人に、よく周りからいじられている子がいた。その子はいつもニコニコしていて、誰にでも優しく、全く怒らないタイプだった。だからみんなは毎日その子をいじっていた。最初のころは、軽いいじりだった。私もその子のことをいじり楽しんでた。だがそのいじりはだんだんエスカレートしていった。その子のことをひどくバカにしたり、みくびった発言をしたりしていた。日が経つごとに、いじりはひどくなっていった。ひどい時にはその子を部屋に閉じこめ、出られないようにドアを押さえたり、カギをかけたりした。「ねえ開けてよ!。」そう言ってもみんなは笑っていた。さすがに私は、いじめなんじゃないかと思った。周りの人も、何人かはそう思っているようだった。しかし、その場の空気や本気で楽しんでいる人達に怖気づいてしまい、私は何も言えなかった。そして何よりその子も笑っていたからだ。嫌そうな顔をせず、楽しんでいるように見えたからだ。なので私はこの子は大丈夫なんだなと思いき、そのままみんなと笑っていた。この頃から、その子へのひどいいじりは毎日になり、あたりまえになっていった。その子をたたいたり強く押ししたり、その子から逃げたり避けたり、もうなんでもありだった。しかしその子は一度たりとも嫌な顔をしたり怒ったりはしなかった。ただ笑っていたのだ。もう私は、ひどいいじりを受けている所を見ても、何とも思わなくなっていた。私はその子のことを、「何をされても怒らない子」と勝手に決めつけていた。

ある時から、私も周りの人からいじられるようになった。初めはちょっかいをかけられるぐらいで、私も楽しかった。だがそのいじりもだんだんひどいものになっていった。まず、私のことが嫌いだと何人かに大きな声で叫ばれた。冗談だということは分かっていたが、何だか惨めな気持ちになった。私がみんなの方に行くと逃げられたりした。くつをとられたり、隠されたりした。すごく嫌で、やめてほしかった。本当は嫌って言いたかったけど、もし言ったら空気を壊してしまいそうで言えなかった。何より、仲の良い友達にいじられるからすごく言いづらかった。

だから笑って耐えることしかできなかった。ところが私へのいじりは日に日になくなっていった。ホッとしたが、心の中はもやもやしていた。私は実際にいじられてみて、気付いたことがあった。それは、「いじり」は「いじめ」と変わらないということ。いじっている人からすれば、「いじめ」ではなく「いじっているだけ」と思うかもしれないが、いじられている本人からすると、「いじめられている」と感じてしまう「いじり」もあるのだ。そのことを身に染みて実感する出来事があった。毎日みんなからひどいいじりを受けていながらも、笑顔だった友達が泣いたことだった。私はすごく驚いた。この友達は「何をされても怒らない子」ではなかったのだ。そもそも、そんな人なんていないのだ。そして私は気がついた。それは、無意識に私は「いじめ」をしていたということだ。「軽いいじり」は、いつのまにか、「いじめ」に変わってしまっていたのだ。私はその子に謝り、それ以来いじることをやめた。

私は実際にいじられることで、「いじられキャラ」の辛さを知った。「いじられキャラ」は決して「愛されキャラ」ではなかったのである。私は「いじめ」と「やりすぎたいじり」は同じだと思うが、私は「やりすぎたいじり」の方が恐ろしいことだと思う。それは仲の良い友達にされるからである。嫌われたくない思いがあるから、嫌と言えないし助けを求められないのだ。私はそんな恐ろしい「やりすぎたいじり」をする人がいなくなってほしい。そのいじりはいじめと変わらないということに気付いてほしい。そして何より「いじめ」や「いじり」に苦しんでいる人がいなくなってほしいと思う。いじられて嫌な思いをしている人は、嫌と言える勇気が必要だと思う。その空気を壊さなければ、状況は何も変わらない。いじっている人は、自分がいじめをしているという自覚がない。だから勇気を出して行動を起こさなければならないのだ。私は、「いじり」は「いじめ」と変わらないということを多くの人に知ってもらいたい。そして何より、「いじめ」や「いじり」がこの世界からなくなってほしい。もし、いじめやいじりで苦しんでいる人を見つけたら、手を差し伸べようと思う。



- ◎ 防寒着の脱着場所の変更について（試行期間 17日～31日）
防寒着の脱着について、現在は校門になっていますが、危険性や健康面も考え下駄箱での脱着に変更します。ただし、生徒会と話し合う中で、校舎内での着用がないか不安な意見も聞かれました。
2週間の試行期間を経て正式に決定することになります。しっかりとルールを守るようにしましょう。

